

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100442		
法人名	社会福祉法人 阿武福祉会		
事業所名	グループホーム であい		
所在地	山口県阿武郡阿武町大字木与39番地の5		
自己評価作成日	平成22年10月21日	評価結果市町受理日	平成23年9月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気の中で、お一人ひとりに寄り添った、きめ細かなサービスを心掛けています。 ・それぞれの思いを十分に耳を傾け、今迄に送ってこられた生活が継続、維持できるように支援します。 ・家族や知人、地域の方々に自由に立ち寄って頂ける様に環境作りに努めます。 ・周囲の方々に認知症の理解を求める努力をします。 ・認知症の為に失いかけてきた自信、生きがいを取り戻し、笑顔で日々が送れる様に努めます。 ・不安のない安定した生活環境が提供できる様に、併設の施設、医療機関、地域の住民との連携を図ります。 ・地域の祭り、敬老会、行事等に積極的に参加し、地域との交流を図ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年までの課題であった運営推進会議を、今年度から2ヶ月に1回開催し、会議の内容を充実して、話し合いだけでなく、感染症や回想法などテーマを決めてミニ講座を実施され、参加者も一緒に学べるようにしておられ、出された意見をサービスの向上に活かしておられます。年2回、事業所での行事の後の家族会議や、訪問時の面会記録簿、電話等で家族からの意見や要望を聞いておられ、運営に反映されています。三食とも事業所で食事づくりをしておられ、献立、食材の買い物、調理、後片づけなどできることを利用者と一緒におられ、職員も同じ食事を食べながら会話を弾ませ、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、常に意識し、実践できるように話し合いを設け日常的に取り組めるように心掛けている。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、ミーティング等で話し合い共有して、生活の継続ができるように、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、苑での行事に等を広く地域に声掛けし参加を求め、気軽に立ち寄って戴ける様に機会を作っている。	法人が自治会に加入し、地域の演芸大会の観賞や花火大会の見学、法人主催の祭りや盆踊り大会、中学生との餅つき、地域ボランティアの草刈りや清掃、歌、踊りでの来訪、散歩や買い物、畑づくり、野菜の差し入れなどで地域の人と交流している。利用者がこれまで住んでいた地域の祭りや敬老会などへも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政、地域の方々の協力を得て、高齢者の生活向上を共に話し合い、できる支援を考えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価結果を踏まえて、改善策を話し合い、それを実施しながら、サービスの向上に努めている。	評価の意義を理解して全職員で自己評価に取り組んでいる。外部評価結果については改善策を話し合い、運営推進会議の回数を増やすなど、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、老人クラブ会長、民生委員、町担当職員、利用者、家族、管理者、職員のメンバーで開催し、現状報告、職員の異動、介護保険情報、ボランティアの協力依頼、地域の情報などで意見交換をして、サービスに生かしている。	今年度は2ヶ月に1回会議を開催し、利用者の状況報告、行事報告、外部評価の取り組み状況報告等をして意見交換をし、出された意見をサービス向上に活かしている。毎回ミニ講座(感染症、回想法等テーマを決めて)を実施している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村と生じた課題の解決法を、協議できる体制を設けている。	運営推進会議以外の町で行われる会議や、祭りなどの行事での交流があり、事業所の抱えている課題については、管理者を中心に町と協力関係を築けるよう協議し連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、内部研修で学び、職員は身体拘束について理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、併設している特別養護老人ホームとの合同研修で学習して、正しく理解しており、拘束や抑制のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。スピーチロックについてはミーティング等で話し合い、特に気をつけるようにしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や苑内研修の参加により、職員間の共通理解が出来ている。常に、情報収集を行い、虐待が無いように注意をはらっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加する事で、理解は出来ている。利用者、家族等と情報交換を行い、必要であれば、支援出来る体制を取っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に対して契約書や重要事項説明書等の理解が得られる様に、十分な説明を行なっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内で家族会議を開催し、和やかな雰囲気の中で要望や意見を出して頂ける様な機会を持っている。	年2回、事業所での行事の後の家族会議や面会時、電話等で家族からの意見や要望を聞き、運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自由に意見が出し合える雰囲気作りをしている。挙げられた意見は検討し実践できるように繋げている。	月1回の全体ミーティングの中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。業務日誌の提出時に管理者が個別に意見を聞いている。出た意見や提案は運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務に適切な評価をして、反映している。職員の取得に向けた十分な支援を受ける事が出来る。取得後は職場内で活かせる職場環境ができる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修が計画されており、スキルアップに努めている。	外部研修は勤務の一環として、経験や段階に応じて参加の機会を提供している。法人内研修や資格取得のための研修への参加ができるよう勤務体制への配慮など、職員が働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で交流した他の同業者と連絡を取り合い情報交換する事で、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の思いを十分に傾聴し、安心して貰えるような関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安に思ったり、困っている事を聞き、解決策をを話し合い、いつでも受け入れができるように心かけている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実情や要望を聞いた上で、必要な支援を見極め地域の介護支援専門員と連絡を取る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のこだわりや、今迄、送られた日々を大切にそれぞれの得意分野で十分に力を発揮して頂いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会できる体制を取ったり、一緒に食事や外出できる様、利用者と交流が出来る様に、支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けの美容院や、町内の商店に行ったり、家族や友人が気軽に立ち寄れる様、支援を心掛けている。	利用者がこれまで住んでいた地域の祭りや敬老会への参加、馴染みの美容院の利用、商店での買い物、自宅訪問など、できるだけ馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でトラブルが生じた場合、さり気なく介入し、解決に努めている。居間で皆と一緒に食事やお茶等をして過ごしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からその後の経過を聞いたり、本人や家族からの相談を受け入れたりしてフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を理解する為に、コミュニケーションを取ったり、日々の生活の中で本人の要望、思い込みを汲み取るように心掛けている。	入居時のフェイスシートや、日々の関わりの中で気づいたり、利用者から聞きとった思いや意向を介護日誌やケース記録に記録して把握に努めている。「できること・できないことノート」を活用して利用者一人ひとりにそった支援をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や近隣の方に情報提供して頂き、その人の生活歴を大切に、独自のライフスタイルを作り出していけるように手助けをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムは経過表や業務日誌で把握するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や立場に立ち、カンファレンス時に、意見を出し合い反映して、プランを考えている。	ケアカンファレンスを毎月1回開催し、ケース記録、ケアプラン経過表、評価表、家族からの意向などを参考にして、全職員で話し合い介護計画を作成している。モニタリングをして3ヶ月か6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイル・食事量・水分チェック・排泄表の記入などを必ず記入し、情報を共有してケアにあつたっている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化のあった時には、家族の要望等や管理者、職員、関係者で話し合いを持ち対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や各方面からのボランティアの方より、清掃作業、行事の協力を頂いており、必要時に直ぐに要請できる体制を整えている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めて、受診等、必要に応じて支援している。	協力医療機関をかかりつけ医としている他、これまでのかかりつけ医での医療が受けられるよう連携を図り支援している。協力医療機関から週に一回往診があるほか、緊急時や不安な時でも快く受診ができるよう協力してもらっている。精神科・眼科・歯科等の受診も必要に応じて同行支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している施設の看護師に、利用者の状況を伝える事で、把握されている。定期的な訪問、要請時には、迅速に対応をして、その後の対応法を職員に指導している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護師が付き添い、本人の状況を、文書や口頭で詳しく説明している。入院先に訪問したり、家族に連絡したりして、情報収集に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聞き、かかりつけ医と相談しながら関係者で対応方法を考えていく。	重度化した場合は、主治医に意見を聞き、利用者・家族・関係者と相談しながら、次の支援につなげるための方針を話し合い全員で共有している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成し、火災、緊急時の対応について話し合い、実際に訓練している。	事故防止マニュアルがあり、ミーティングでの話し合い、応急手当の研修など事故防止に努めているが、日々のヒヤリはっとの記録が十分ではなく、利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいるとは言えない。初期対応や応急手当の訓練を定期的に行っていない。	・ヒヤリはっど報告書を活かした一人ひとりの状態に応じた事故防止への取り組み ・定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練の実施をしている。併設の施設や近隣の住民の協力を得られる。	防災マニュアルがあり、年に3回(夜間想定2回)避難訓練や避難経路の確認、消化訓練の実施をしている。併設施設や地域の協力が得られるよう協力体制ができている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルがあるが、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応、何気ない言葉掛けの中に認識が薄い場面が見受けられた。記録物は事務所に保管し、個人情報の取り扱いに注意している。	マニュアルがあり、誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけや対応に気をつけるよう努力している。気になる言葉かけ等について接遇研修を予定している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の手助けをするが、時には職員サイドで決めてしまうこともある。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、日々の関わりや介護日誌から希望の過ごし方の状況を把握し、その人らしい暮らしが出来るように支援する。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の行き付けの美容院に行ける様に予約をし送迎も行なっている。利用者には季節感や場所を考えたおしゃれが出来るように心掛けている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを考えたり、出来る事を一緒にする。又、誕生日会や家のイベント時には利用者の希望が叶うように支援している。	三食とも事業所で食事づくりをしている。週2～3回、利用者と一緒に食材の買い物をしている。調理、盛り付け、後片づけなど、利用者にはできる事をして、食事を楽しんでいる。誕生日には利用者の好きな物をつくり、利用者の健康状態に合わせての支援や、栄養バランスの取れた食事を提供している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に献立表を点検して貰い、栄養バランス等の指導を受けている。食事や水分摂取量を記入し、キザミ食にしたり食事の介助をして適量摂取できるように支援する。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをしている。自分で出来る利用者には見守り、出来ない利用者には介助する。義歯は每晚洗浄し、歯ブラシは、定期的に交換する。必要時には、歯科受診の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により、利用者の排泄パターンを把握し、オムツを使用しないで過ごせるように支援する。	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の中に食物繊維を多く含む食品を取り入れたり等、配慮している。又、起床時に冷水、牛乳の提供や適度の運動に心掛けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴することも出来、時間帯も本人の希望を聞き、実践している。	入浴は毎日16時前から18時まで可能で、利用者の希望や状態、タイミングに合わせて、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により個別休息を取ったり、夜間逆転のないように昼間覚醒させておく工夫をして、良眠に繋げるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースの使用により、飲み忘れ、誤薬の無いように気を付けている。心身上の変化が見られた場合、看護師に連絡を取り、医療機関に連絡を取って貰っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意としている分野を探り、声掛け、実施出来、達成感を味わって貰い、次のステップに繋げて行く。	新聞を読んだり、テレビを観たり、歌を歌ったり、ぬり絵、折り紙、トランプ、買い物、散歩、ドライブ、畑づくり、草引き、料理、裁縫など楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に周辺の散歩、買物を実施している。歩行が困難な利用者には、車椅子等を利用して戸外に連れ出している。	散歩、買い物、ドライブ、外食、季節の花見など、戸外に出かけられるよう支援している。地域の演芸大会の観賞にも出かけて楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中から支払いをする機会を設けているが、金銭感覚が無い利用者が増えている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があれば支援している。 年賀状を書いていただく支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光を十分に取ってある造りで自然にな光の中で心地よく暮すことが出来る。天井が高い造りで威圧感を与えない工夫をされている。不快感を与えない様に、換気、掃除に気を配っている。	玄関やリビングなど、いろんな箇所に季節の花が活けられ、談話コーナーや畳のスペースがあり、ソファが置かれ、利用者がそれぞれの居場所でくつろいでいる様子が伺えた。高い天井から差し込む自然のやわらかな明かりや、キッチンからの調理の音や匂い、換気についての配慮など、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間を儲け、冬場にはコタツを出して、少人数でくつろぎやすい環境を作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れている家具や大切な物、思い出のある品等を持ち込んで頂き、今までの暮らしとのギャップが無い様に環境作りをしている。	ベッド、整理ダンス、テレビ等は備え付けであるが、その他の使い慣れた家具や生活用品、家族の写真、本やぬいぐるみなどを持ち込み、落ち着いて暮らせるような居室づくりを支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、居室を間違えている利用者には、解りやすく説明し混乱を最小限に抑えるように努める。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム であい

作成日：平成 22年 10月 21日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	21	プライバシーを損ねない言葉かけや対応についての研修が未実施	・研修会に参加する ・職員間で勉強会をする	・接遇検証(認知対応)の実施 ・誇りやプライバシーを損ねない、言葉掛けを全職員への徹底	H22. 4. 1～ H23. 3. 31
2	30	利用者の急変や事故発生時に備えた、応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	・応急手当の初期対応の勉強会	・応急手当や初期対応の勉強会	H22. 4. 1～ H23. 3. 31
3	5	運営推進会議の回数を増やす	・2ヶ月に1回開催する	・2ヶ月に1回開催する	H22. 4. 1～ H23. 3. 31
4	12	近隣の同業者との交流する機会もなく、勉強会を行っていない	・近隣の同業者との交流	・近隣の同業者との交流	H22. 4. 1～ H23. 3. 31
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。